

いぐだたみ

No. 164
2011年7月

◆◆◆司書等を活かした知の地域づくり支援事業◆◆◆

国の地域活性化交付金を活用した「司書等を活かした知の地域づくり支援事業」による資料（図書等）の貸出を開始しました。

本事業は、平成23・24年度の2カ年の事業で、県民の日常生活に役立つテーマを設定し、問題を解決するために必要な情報や資料を提供することを目的としています。

提供に関しては、当館において特設コーナーの設置や司書等を新たに配置し相談受付を行います。また、市町立図書館を通じてご利用になれます。

〔平成23年度のテーマ及び貸出予定時期〕

●医療・健康関係(6月中旬)

医療、介護、看護などの分野で専門的な資料を収集し、健康づくりのお手伝いします。

●就職・資格・ビジネス関係(7月以降)

資格取得用の問題集や参考書の充実を図るとともに、農林業関係の資料も貸出します。

●福祉関係(9月以降)

耳からの読書を体験していただくための小説等の録音ディスクを貸出します。

●郷土関係(12月以降)

地域産業の水産・窯業関係の資料、世界遺産関連資料を貸出します。

●幼児・児童書関係(6月以降随時)

大型絵本・紙芝居・ポップアップ絵本等を貸出します。

本事業を紹介したチラシや資料のリストについては、当館ホームページまたは最寄りの公共図書館等でご覧いただけます。また、当館ホームページに随時、情報を掲載しますのでご利用ください。



もくじ

◎ 司書等を活かした知の地域づくり支援事業	P 1
◎ 館長就任あいさつ	P 2
◎ 県内図書館散歩	P 2
◎ 長崎ゆかりの文学展・常設展	P 3
◎ 長崎ゆかりの文学展・企画展	P 3
◎ 第22回県立長崎図書館講座	P 4
◎ 津村節子氏来館	P 4
◎ 文化講演会	P 4
◎ 文部科学省表彰団体の紹介	P 5
◎ 植木家資料展	P 6
◎ お知らせ、行事案内	P 6



2012年、県立長崎図書館は創立100周年!!

県立長崎図書館「新任館長として」

県内全域を支える情報拠点をめざして



館長 中島 洋

私たち県民を取り巻く世界の動きにはすさまじいものがあります。経済的な分野においては低成長、グローバル化の進展、社会的な分野においては、財政難、人口の減少、少子高齢化、ライフスタイルの多様化、住民ニーズの複雑化、技術的な分野においては、高度情報化・ネットワーク化の進行など本県やわが国の社会環境は大きく変化しています。

これらの動きに伴い、人々の生き方、価値観、行動形態も変化しており、従来の在り方、考え方では時代に対応できにくい状況になっているのも事実ではないかと思えます。

このような変化の激しい時代に、最も求められるのは、これらの変化に対応できる「自立した社会人（県民）」ではないかと思えます。言い換えると、「自己判断ができ・自己責任がとれる社会人（県民）」だと思えます。

そのためには、多角的な視野での多くの知識や情報の収集、新たな知識の継続的な学習、これまでの知識・技術の学び直しが不可欠です。「自立した社会人（県民）」の前提となるこれらの活動をバックアップする有効な機関の一つが「県立図書館」だと思えます。

さらに、知識・情報の収集等には、地域間の格差を

できるだけ生じさせないことが肝要ですが、本県においては「しま地区・半島地区」が多いこともあり、格差が生じやすい環境にあります。この課題を解消するためには県内全域を網羅するシステムが求められますが、その中心の役割を担うのは「県立図書館」であり、その在り方は県内全体を左右するものだと思います。

本館においては現在、県内公共・大学図書館とのネットワークを活用した横断検索、所蔵調査、相互貸借のための協力車の運行、しま地区への宅配便による図書・資料の貸し出しなど、全県内の公共図書館等を対象に支援を目的とした取り組みを展開しています。また、本館の100年の歴史が積み上げてきた貴重資料を活用した情報発信も行っています。しかし、求められるものにはまだまだ達していません。今後とも、全館員の総力を結集し、**県内全域を支える情報拠点**を目指して、さまざまな取り組みを積極的に行わなければならないと考えています。

長崎県立長崎図書館の全館員は、「**県民のニーズに応え、ニーズを引き出す**」ことを合言葉にこれからも頑張るつもりです。

シリーズ 県内図書館散歩 ④

一 諫早市 諫早図書館 一



夕闇に包まれた諫早図書館

一 皆さまとともに10周年 一 平成23年度は諫早図書館記念事業年

市民と行政が一体となって育てた諫早図書館が開館10年を迎えました。商店街には「皆様とともに10周年・平成23年度諫早図書館記念事業年」の横断幕も掲げられています。

7月2日には10周年記念式典や講演会を開催し、図書館支援団体との共催事業「第10回図書館フェスティバル」も開催されました。

今年度は年間をとおし、記念事業年にふさわしい事業を展開してまいります。

「諫早日記の解説事業」や「ビジネス支援事業」さまざまな講座も進行中です。芥川賞作家野呂邦暢や日本を代表する抒情詩人伊東静雄が生きた諫早。そんな諫早の風土に市川名誉館長がプロデュースする「シナリオ講座」も特記したいところです。

10年の節目は迎えましたが、まだまだ飛躍しなければなりません。何しろ市民と行政が知恵と力を集めて立ち上げた市民のための図書館なのですから。



市川森一名誉館長監修のシナリオ講座

長崎ゆかりの文学展

県立長崎図書館では、本県にゆかりのある作家や文学作品を中心に、「長崎ゆかりの文学展」として、年4回、企画展を開催しています。毎年夏の企画展では「原爆文学」をテーマに展示しています。

●第2回企画展 原爆文学展 ～「ナガサキ」そして「長崎」～ **開催中**

現在、4階郷土資料展示室で開催しています。長崎市出身の芥川賞作家林京子氏、風木雲太郎、福田須磨子、竹山広、水原秋桜子等の直筆資料をはじめ本館に寄贈された貴重資料を中心に展示紹介しています。

特に、長崎原爆資料館横に句碑がある水原秋桜子の「薔薇の句」の直筆色紙や風木雲太郎直筆原稿は初公開です。会期は8月28日（日）までです。

この機会にぜひご来館ください。



水原秋桜子「薔薇の句」の句碑

●常設展 「シリーズ 長崎文学散歩 第3回」 **開催中**



斎藤茂吉直筆色紙

本県の文学碑や作品の舞台の写真と解説パネル、本館所蔵資料を展示し、長崎ゆかりの文学をシリーズで紹介しています。

第3回目は、斎藤茂吉歌碑（長崎市・雲仙市）、森澄雄句碑（長崎市）、福田清人文学碑（波佐見町）、菊田一夫詩碑（南島原市）、藤浦洸詩碑（平戸市）をはじめ、吉村昭著『海の祭礼』の主人公ラナルド・マクドナルドの顕彰碑（長崎市）やさだまさし著『解夏』の映画ロケ地ともなった聖福寺（長崎市）を紹介しています。

斎藤茂吉の直筆色紙・短冊・はがきや森澄雄、菊田一夫、さだまさしの直筆色紙に加えて、平成23年3月に閉校した県立野母崎高等学校から寄贈された同校校歌の直筆原稿（藤浦洸作詩）や楽譜（古関裕而作曲）なども展示しています。

また、吉村昭夫人で芥川賞作家の津村節子氏から、今春本館に寄託された吉村昭直筆原稿『暁の旅人』は7月1日から8月7日（吉村の祥月命日は7月31日）まで特別展示しています。



吉村原稿「暁の旅人」

●第1回企画展 「長崎の文学の光と影 ～『五足の靴』の青年たち～」を開催しました。

明治40年の夏、与謝野鉄幹、北原白秋、吉井勇、木下杢太郎、平野万里の5人は、九州を旅し、「五足の靴」と題する紀行文を「東京二六新聞」に寄せました。佐世保、平戸、長崎、島原も訪れましたが、南蛮文化やキリシタン関連の文物等から醸し出される異国情緒は彼らを魅了し、その後の創作活動に大きな影響を与えました。

日本文学史に名を残す若き青年たちに多大な影響を与えた「郷土長崎」を、「長崎ゆかりの文学」という視点から展示紹介しました。



郷土資料展示室

第22回県立長崎図書館講座

「長崎の文学の光と影～『五足の靴』の足跡～」を開催しました。



講師の田崎弘章教授

「五足の靴」をテーマとする企画展に連動した文学講座を5月21日（土）に開催しました。

講師に、佐世保工業高等専門学校教授の田崎弘章氏をお招きし、「五足の靴」の足跡を辿りながら、そこに描かれた明治40年の長崎を読み取り、「五足の靴」の魅力はもとよりその影の部分についてもわかりやすくお話いただきました。

受講者からは、「資料とともに『五足の靴』の中身を実際に辿ることができ、先生の独特な切り口での『五足の靴』論を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。」「田崎先生の個性が見え、とても興味深く聴きました。もっと『長崎の文学』について聞きたい。」等の感想が寄せられ、大変好評でした。

芥川賞作家 津村節子氏 来館

津村節子氏が3月12日（土）に来館され、長崎ゆかりの文学展第4回企画展「県立長崎図書館を訪れた文人たち～昭和期の芳名録を中心に～」をご観覧くださいました。

津村氏は、昨年5月と7月に吉村昭直筆原稿2編を本館に寄贈されましたが、3月11日に三菱重工長崎造船所内の史料館に開設された「吉村昭コーナー」の除幕式に出席され、翌日、吉村原稿のお披露目ともなる当館の文学展にお越しくださいました。吉村昭は107回、津村氏も一緒に50回は訪れたという長崎は、ご夫妻にとってかけがえのない思い出の地でもあられます。

長崎をこよなく愛してくださる津村氏は、本年6月に「異郷」で第37回川端康成文学賞を受賞されました。心からお喜び申し上げます。



長崎ゆかりの文学展をご覧になる津村節子氏

平成23年度長崎県読書グループ連絡協議会文化講演会（共催事業）

6月2日（木）、本館講堂において活水女子大学教授の田中俊廣氏を講師に招き、「伊東静雄の詩の世界『痛き夢』の軌跡」と題して文化講演会を開催し、諫早市出身の詩人伊東静雄の生涯と詩の魅力についてご講演いただきました。

詩人が理想と現実の間で悩みながら創り続けた数々の作品を、わかりやすく解説していただき、参加者から感嘆と深い共感の声が上がっていました。同じ作品を大勢で味わう読書会の意義も再確認することができ、大好評の内に終了しました。



文部科学省表彰団体の紹介

◎本を身近に感じることができる環境をめざして（五島市立図書館）

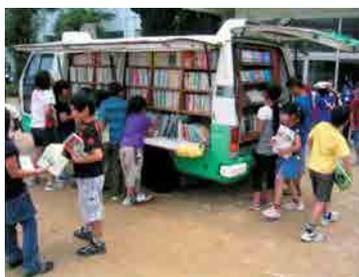
五島市立図書館は、下五島地区で唯一の公共図書館であり、平成3年にオープンして以来、読書を推進する活動として、移動図書館車（以下「BM」と略します。）の巡回サービスやボランティアグループと連携した読み語りの開催などを継続的に行ってきました。

市立図書館が運営するBM「ラブリーツばき号」は、図書館から離れた地域に住む市民のみなさまに対して、本とふれあう機会を増やす目的で、幼稚園や学校・介護施設を中心に巡回をスタートしました。特に、市街地から離れた地域の子どもたちにとって図書館は物理的に遠い存在であり、市内には書店の数も少なく、本を読める環境が十分とはいえません。そうした環境の中で、子どもたちはBMの巡回をとて楽しみに行き、毎回たくさんの貸出とリクエストを受けています。

読み語りボランティアグループと連携した取り組みとしては、「おはなし・もこもこ」が中心になって行う月2回の読み語りがあります。また、7月の夏休みに開く工作教室や、12月に行うクリスマス会では、毎回70名以上の子どもたちの参加があり、

これらボランティア主催のイベントは、本を通してみんなと楽しめる、欠かせないイベントとなっています。

市立図書館では平成26年度中の開館をめざして新・図書館建設の準備を進めています。市民のみなさまの生活に役立つ情報拠点として、地域にとってこれまで以上に情報提供サービスを展開し、五島の活性化につながる図書館をめざしています。市民のみなさまや子どもたちとふれあう機会を大切にしながら、五島市全体が本を身近に感じることができる環境づくりの実現に向けて、日々努力を重ねてまいります。



五島市立玉之浦小学校



もこもこクリスマス会

◎ 時津東小学校図書館ボランティア「ごほんの会」



ごほんの会のシンボルマーク「ごほんちゃん」

子どもの輝く瞳が大好き！子どものワクワクした笑顔が大好き！この未来を担う子ども達の為に図書館を通して何かお手伝いできればという思いで集まっているお母さん達の会が「ごほんの会」です。現在、地域の方を含めて20数名で活動しています。

ごほんの会は、平成4年「時津東小図書館を良くしたい」という学校の呼びかけを受けて集まった保護者で結成されました。学校図書館作りに取り組む活動の中で、学校図書館に専門家である司書の必要性を感じ、先生方と共に町政に働きかけた結果、皆の願いが通じて平成7年に町採用の司書が誕生しました。平成15年には2名の配置になりました。

今では先生や司書の奮闘努力のおかげで、年間10万冊以上、一人平均140冊の貸出冊数を記録するほどになり、又、子ども達は調べ学習など授業でも図書館をたくさん利用しています。ごほんの会は本が大好きな東小の子ども達に、より本に親しんでもらおうと書架整理や図書館に季節を感じるような展示や掲示をしたり、週に一度お昼休みのおは

なし会、朝の読書タイムで読み語りをしています。おはなし会や朝の読み語りでは子ども達の素直な気持ちに癒されると同時に、一冊の本に釘づけになる子ども達の真剣なまなざしと集中力に毎回驚かされています。

今年度、ごほんの会は発足から20年を迎えています。この20年の歩みの中で、学校、先生、司書、地域、保護者が時津東小図書館を良くしたいという思いのもと一丸となってきたからこそ、このような活動を長く続けてこれたのだと思います。

ごほんの会は、これからも図書館ボランティアとして学校司書を支え、先生と協働しながら学校図書館を通して子ども達を応援していきたいと思っております。

そして、図書館が子ども達の感性を豊かに育み、心に残る一冊の本に出合える場になることを願っています。



お昼休みのおはなし会



壁面飾りを製作中

「島原鉄道をつくった植木元太郎—植木家資料展—」

起業家として島原鉄道創業期に関わった植木元太郎。彼の業績を示す資料を中心に展示します。

期間 平成23年8月6日(土)～平成23年9月29日(木)(休館日を除く)

場所 長崎県立長崎図書館 2階ロビー **入場無料**

*主な展示資料：第1号機関車写真、島原鉄道創業期の徽章、原敬による祝辞、第1号機関車に取り付けられた「惜別感無量」銅板など



お知らせ・お願い

* 創立100周年記念事業「思い出の写真・エピソード」募集

長崎県立長崎図書館は、平成24年6月1日に創立100周年を迎えます。

この100年間の1コマを切り取った県立長崎図書館の写真等が皆様のお手元にございましたら、ぜひご提供ください。また、図書館にまつわる思い出を、文章にしてお寄せください。

本館図書館で、展示や記念誌作成の資料にいたします。

① 募集期間 平成23年7月1日(金)～平成23年12月25日(日)

② 募集内容 ①長崎県立長崎図書館が写っている写真など映像資料の複製物が原本(現物)
②長崎県立長崎図書館にまつわるエピソード(様式任意)

③ 提供方法 ①来館による提供……2階総務課までご持参ください。
②送付による提供……下記の住所まで送付ください。
③Eメールによるデータ提供……下記メールアドレスまで送信ください。

④ その他 ①ご提供いただいた映像資料複製物とエピソード原稿は返却いたしません。
②映像資料の原本をご提供いただいた場合は、複製物作成後返却します。(但し、著作権等により作成できない場合があります)
③所定の「送付票」に必要事項を記入し添付ください。(映像資料とエピソードの送付票は別葉にしてください。但し、映像資料に関するエピソードの場合は、1枚で可。)
「送付票」は、県立長崎図書館総務課、または、同ホームページ(<http://www.lib.pref.nagasaki.jp/>)上にあります。
④ご提供いただいた映像資料等は、企画展示や記念誌に使用することがあります。



送付
連絡先

〒850-0007 長崎県長崎市立山1-1-51
長崎県立長崎図書館 総務課
TEL 095-826-5257 FAX 095-826-5253
Eメールアドレス s40270@pref.nagasaki.lg.jp

読書郵便の作品募集

今年度も、県内市町立図書館等のご協力をいただき、右記チラシのとおり募集しておりますので、ふるってお近くの図書館までご応募ください。(お子様にもご案内ください。)

多くの人の心に響く、心のこもった温かい作品(ハガキ様式)をお待ちしております。

応募対象 県内の小・中・高校生

応募締切 9月9日(金)

問合せ先 最寄りの市町立図書館または県立長崎図書館

提出先 県立長崎図書館ホームページをご覧ください。



催し物のご案内

第24回県立長崎図書館講座

日時：平成23年11月12日(土) 13:30～15:30

場所：県立長崎図書館2階講堂

内容：「長崎と中国」をテーマとする対談

講師：若木 太一氏(長崎大学名誉教授)

陳 東華氏(長崎中国交流史協会専務理事)

「長崎ゆかりの文学展」

(第2回企画展)「原爆文学展～『ナガサキ』そして『長崎』～」
(平成23年7月12日～8月28日)(開催中)

(第3回企画展)「映画にみる長崎の文学」
(平成23年9月13日～11月27日)

場所：県立長崎図書館4階郷土資料展示室

時間：9:30～17:00(ただし休館日を除く)